

2 須賀川市の地域特性と公共交通の現状把握

2-1 上位・関連計画の整理

(1) 須賀川市第8次総合計画、震災復興計画等、上位計画における公共交通の位置付け

①須賀川市第8次総合計画「須賀川市まちづくりビジョン2018」(2017年12月)

【計画期間】 2018年度～2022年度

【将来都市像】 『選ばれるまちへ ともに歩む自治都市 すかがわ』

【目標人口】 2022年：76,000人、2027年：75,000人

【政策別基本方針（5政策+1）】

政策1：いきいきと人が輝くまちづくり

政策2：笑顔で健やかに暮らせるまちづくり

政策3：安全に安心して暮らせるまちづくり

政策4：環境にやさしく快適に暮らせるまちづくり

政策5：活力とにぎわいあふれるまちづくり

計画実現のための行政経営の更なる推進

【施策3-4（公共交通網の充実）】

[施策の目指す姿]

：公共交通網が充実し、交通空白地域が減少します。

[施策の成果指標]

指標名	現状値(2016)	目標値(2022)	指標の説明
公共交通が利用しやすいと思う市民の割合	67.2%	↗	市民アンケートで、バス・乗合タクシー・鉄道の運行について、「満足」「やや満足」「ふつう」と回答した割合
公共交通の乗車人員	1,165,758人	→	乗合タクシー、循環バス、路線バス、東北本線須賀川駅の乗車人員

[取組方針]

：持続可能な公共交通体系に再編することで、交通不便地域の解消と公共交通の利便性向上に努めます。

[基本事項の構成]

基本事項名・目指す姿	指標名	現状値(2016)	目標値(2022)
交通弱者や交通不便地域の解消 ：学生や高齢者をはじめとする交通弱者などの移動手段が確保されます。	交通手段がなくて困っている市民の割合	6.5%	→
	乗合タクシーの運行地域カバー率	64.6%	65.8%
公共交通の利便性向上 ：公共交通の利便性が向上します。	各種バス年間乗車人員	323,703人	320,000人
	須賀川駅の1日平均乗車人員	2,307人	→

②須賀川市震災復興計画（2011年12月）

震災復興計画における目的については、策定当時のものであり、目的を達成したものや現状に合わないものもある。

【計画期間】 2011年度～2015年度

【復興都市像】 共有、共感、共生へ ともに築く復興都市 すかがわ
～今こそ須賀川の力を… 未来 そして こどもたちのために～

【基本的視点（3つの柱）】 市民生活の再建、産業の振興、安全・安心なまちづくりの推進

【行政機能の再建⇒生活交通網の整備】

市庁舎被災により分散した行政機能に対する利用者の不便の解消と市民サービスの継続的な提供を目的に、災害時に緊急措置として、引き続き市内循環バスの運行を行います。

須賀川総合交通ビジョンや実証運行計画に位置付けている中心市街地循環バスの運行について、実施に向け検討します。

（2）都市計画、観光、福祉における公共交通の位置付け

①須賀川市都市計画マスタープラン（2009年10月）※現在改定中

【目標年次】 2030年

【都市づくりのテーマ】 『美しく潤いのある 協働の都市づくり』

【都市づくりの基本目標】

安全・安心な都市づくり、循環型の都市づくり、協働の都市づくり、元気な都市づくり

【将来の都市像】

- 都市計画区域内（市街化区域・市街化調整区域）と都市計画区域外の3つに区分
- 都市機能の拠点、特性あるエリアとなる8つの「核・拠点・ゾーン」
- 人、情報、交通等の主要な流れを示す5つの軸

【公共交通の方針】

○鉄道の利便性向上

- ・須賀川駅の利便性を向上させるため、駅の南北を円滑に連絡する方策について、市民・関係機関と連携して整備について検討します。
- ・JR 東北本線の新駅構想については、社会経済状況の変化などを踏まえ、調査研究を進めながら対応します。

○新たな公共交通システムの構築

- ・2009年2月から一部の地域において、須賀川市乗合タクシーの運行を開始したことから、これらの運行状況を踏まえ、地域の実情を考慮した公共交通システムの導入を検討します。
- ・市街地については、循環バスなどを含めた新たな公共交通システムの導入を検討します。
- ・隣接する市町村間との広域バスルートについては、関係市町村等と協議しながら検討します。

○福島空港の利活用

- ・福島空港は国内だけでなく海外との交流・交通拠点として、利活用するとともに、関係機関と連携して、交通ネットワークなど利用しやすい環境づくりに努めます。

④須賀川市第3次地域福祉計画（2019年3月策定）

【計画期間】 2019年度～2023年度（5年間）

【基本理念】 「みんなで作る 地域共生社会 すかがわ」

【基本目標】

- ・人をつなぐ地域をつなぐまちづくり
- ・笑顔で健やかに暮らせるまちづくり
- ・安全に安心して暮らせるまちづくり

【公共交通網の充実（移動支援の充実）】

[目指すべき姿]

：交通弱者や移動への支援が必要な方に必要な量の公的サービスが公平に行き渡り、地域での生活を安定的に継続できています。

[課題解決のための取組]

：各制度によりさまざまな支援がありますが、それぞれの制度での効率的な運用はもとより、須賀川市全体として全ての支援を必要としている市民にサービスが行き渡るよう、制度の垣根を超えた取り組みを進めていきます。

[それぞれの役割分担]

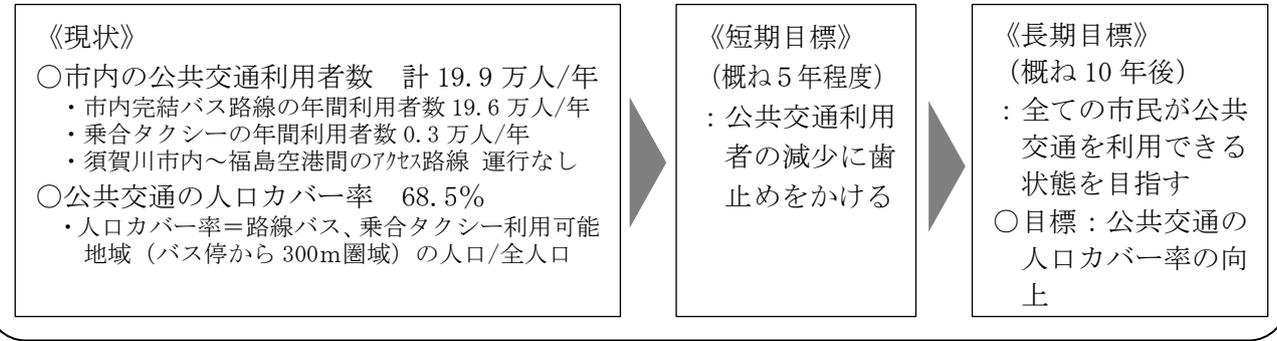
自分自身でできること	○一人で悩まず相談します。 ○公共交通機関の利用方法などについて理解を深め、利用を心がけます。
地域で共に取り組むこと	○公共交通機関や総合交通体系の重要性を認識し、理解を深めます。
行政等ができること	○事業者を含む関係機関と連携し、公共交通機関の利便性の向上を図ります。 ○持続可能な公共交通体系への再編による交通不便地域の解消に努めます。 ○交通弱者や移動への支援が必要な人に、必要な量の公的サービスが公平に行き渡るよう、制度の垣根を超えた取り組みを進めていきます。

(3) これまで実施してきた「総合連携計画」の目標の計画達成状況評価

【基本方針】

～将来に向けて持続可能で、かつ、都市構造の変化や公共交通利用者のニーズ、福島空港を活かしたまちづくりの実現に対応した新たな公共交通体系の構築を目指します。～

【目標】



■取組み状況

		実施事業	実施時期	達成状況
運行事業	リーディングプロジェクトの展開	○市街地循環路線（東循環・西循環）の新設	2011 年後期～	○
		○郊外循環路線（長沼⇄岩瀬）の新設	2011 年後期～	未達成
	乗合タクシーの運行	○稲田エリア（新設）	2011 年後期～	○
		○西袋エリア（新設）	2012 年～	未達成
		○大東エリア（拡充）		○
		○小塩江エリア（区域見直し）		○
		○浜田エリア（拡充）		○
		○仁井田エリア（拡充）	2012 年後期～	未達成
	○長沼エリア（拡充）	未達成		
	バス路線の見直し	○岩瀬エリア（拡充）	2013 年～	未達成
○勢至堂エリア（新設）		○		
○東山エリア（新設）		○		
バス路線の見直し	○銭神エリア（新設）	2013 年	○	
	○浜尾線、田中線の廃止		○	
	○仁井田經由守屋線、矢沢經由北横田線、仁井田經由滝原線の減便		○	
		○空港アクセス路線（須賀川市内～福島空港）の確保	2013 年～	未達成
利用促進事業		○公共交通に関する情報発信（PR・モビリティマネジメントの実施） ・広報誌、啓発チラシ、ホームページ、地域懇談会などによる発信 ・体験乗車会等を通じた公共交通の啓発 ・動機付け冊子や公共交通マップの作成 など	2010 年～ (運行事業に合わせ随時)	○

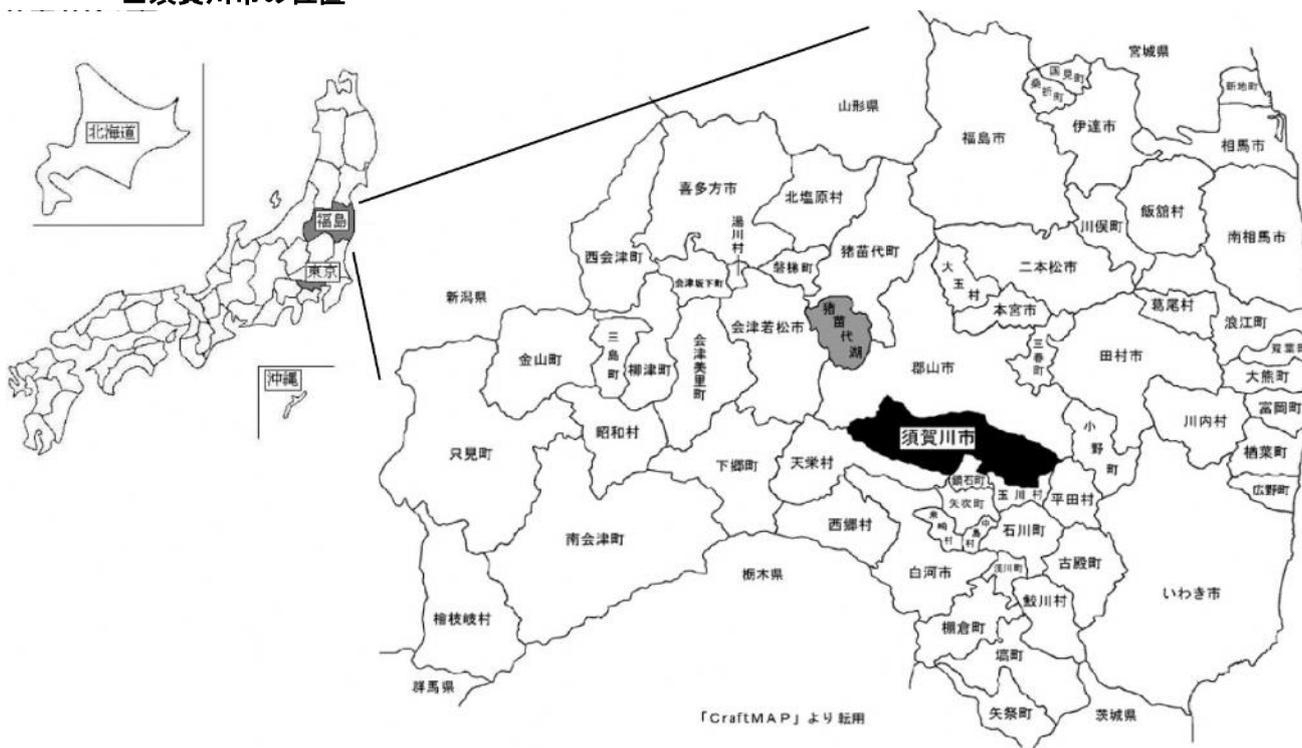
2-2 地域特性の整理

(1) 地理、地形的特性

須賀川市は、東京から北へ約 200 km、福島県のほぼ中央に位置し、東西に約 37.9 km、南北に約 16.5 km、面積は 279.43 km²を有し、北は郡山市、南は鏡石町及び玉川村、東は平田村、西は天栄村に接している。1973 年に東北縦貫自動車道須賀川 I C が開設し、1993 年 3 月には市の東部に福島空港が開港し、福島県の空の玄関口となっている。

また、国道 4 号、国道 118 号、国道 294 号などの幹線道路や、JR 東北新幹線、JR 東北本線及び JR 水郡線が通り、県内でも交通の利便性に恵まれた地域となっている。

■須賀川市の位置



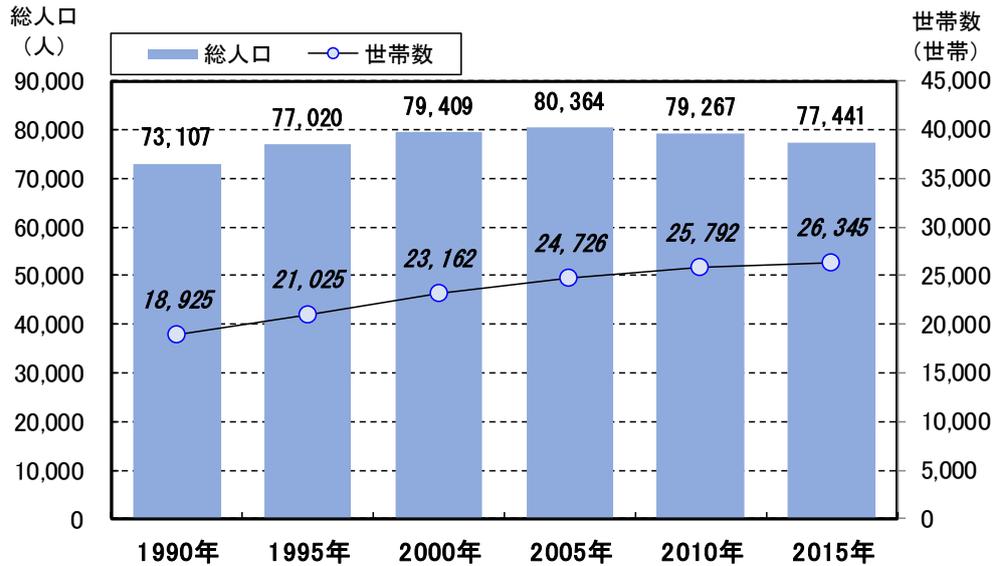
(2) 人口動向

① 総人口・世帯数

総人口は 2005 年の 80,364 人をピークに減少しており、2015 年の国勢調査では、総人口は 77,441 人、総世帯数は 26,345 世帯となっている。総世帯数が年々増加傾向にある一方、一世帯当り人員は減少しており、核家族化が進んでいる。

地区別にみると、須賀川地区が 21,115 人(27.3%)と最も多く、次いで西袋地区 19,350 人(25.0%)、仁井田地区 7,960 人(10.3%)の順となっており、西袋・小塩江・仁井田地区を除いて全体的に減少傾向である。

■総人口・世帯数の推移



出典：国勢調査

■総人口（地区別）・世帯数の推移

年	人口 (人)										世帯数 (世帯)	1世帯当り 人口 (人)
	須賀川	浜田	西袋	稲田	小塩江	仁井田	大東	長沼	岩瀬	総数		
1990年	23,900	4,826	12,523	3,967	3,845	5,031	6,603	6,449	5,963	73,107	18,925	3.86
1995年	23,245	5,214	14,538	4,411	4,034	6,497	6,359	6,466	6,256	77,020	21,025	3.66
2000年	22,999	5,429	16,549	4,466	4,207	7,113	5,984	6,451	6,211	79,409	23,162	3.43
2005年	22,823	5,431	17,895	4,396	4,213	7,512	5,849	6,359	5,886	80,364	24,726	3.25
2010年	21,951	5,322	18,760	4,225	4,145	7,802	5,575	5,856	5,631	79,267	25,792	3.07
2015年	21,115	4,913	19,350	3,960	4,338	7,960	5,210	5,392	5,203	77,441	26,345	2.94
伸び率 (2015/2005)	-7.5%	-9.5%	8.1%	-9.9%	3.0%	6.0%	-10.9%	-15.2%	-11.6%	-3.6%	6.5%	
地区別割合 2015年	27.3%	6.3%	25.0%	5.1%	5.6%	10.3%	6.7%	7.0%	6.7%	100.0%		

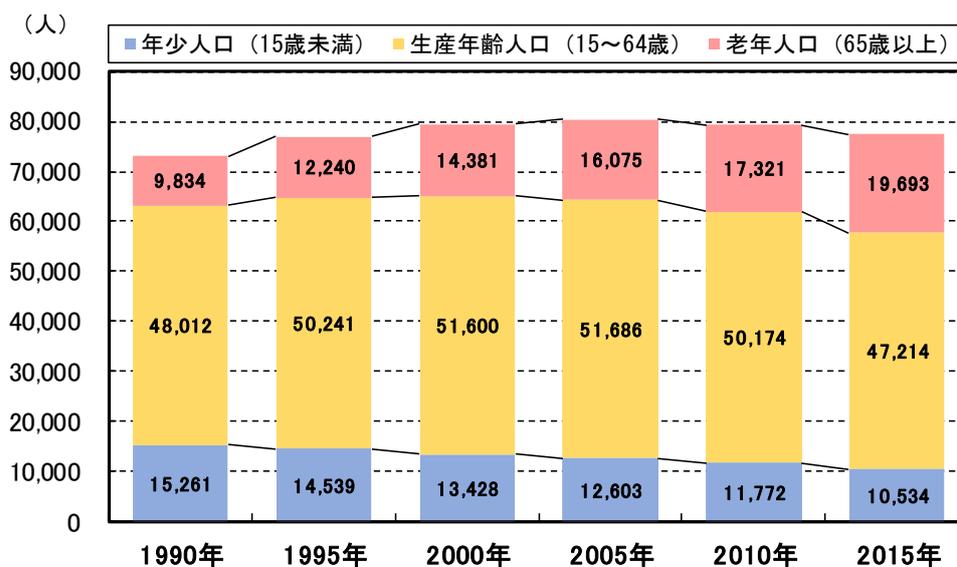
出典：国勢調査

②年齢3区分別人口

年齢3区分別人口の推移は2005年以降、年少人口と生産年齢人口が減少する一方、老年人口は増加しており、少子高齢化が進行している。老年人口は10年間（2005年～2015年）で約1.2倍に増加し、総人口に占める割合も25.4%と増加している。

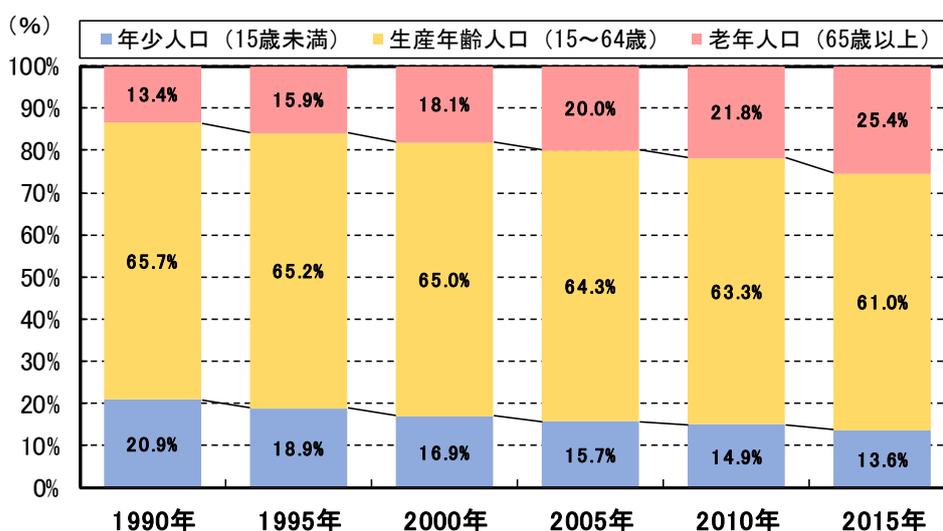
今後、総人口が減少していく中、老年人口の占める割合が大きくなっていくことで、少子高齢化が更に加速することが予想されている。

■年齢3区分別人口の推移



出典：国勢調査 ※2015年までの推移は構成比で按分した「年齢不詳」を含む。

■年齢3区分別人口構成比の推移



出典：国勢調査 ※2015年までの推移は構成比で按分した「年齢不詳」を含む。

(3) 主要施設分布状況等の整理

須賀川市内の公共施設や大規模店舗、医療施設などは、地区別人口割合が高い須賀川地区と西袋地区に多数集積し、大規模店舗は市中心部や国道4号沿線に立地している。

また、市中心部には、東日本大震災からの復興のシンボルである須賀川市新庁舎が2017年3月に完成し、同年5月に開庁した。

さらには、中心市街地活性化の中核施設として、図書館や公民館、子育て施設、市民活動団体等の支援、市民交流、まちなか賑わいなどの機能を持つ複合施設である須賀川市民交流センター「tette」が2019年1月からオープンした。

今後、2024年度の供用開始を目標に、須賀川駅の橋上化・東西自由通路、駅西側と4号国道を結ぶ新たな市道、駅北西部にある国指定史跡「上人壇廃寺跡」の史跡公園化などを視野に入れた駅前広場などの整備を進める予定である。



▲須賀川市新庁舎



▲須賀川市民交流センター「tette」

■主要施設分布図



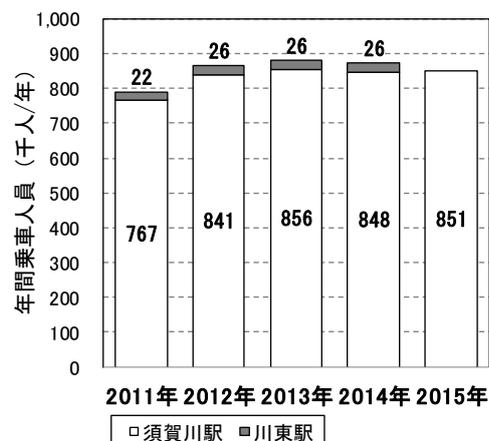
2-3 公共交通の実態整理

(1) 鉄道

須賀川市の鉄道は、JR 東北本線の須賀川駅と、JR 水郡線の川東駅と小塩江駅の3駅で、年間乗車人員は須賀川駅が85.1万人、川東駅が2.6万人と横ばい状態となっている。

なお、須賀川市の中心核である須賀川駅では「須賀川駅西地区都市再生整備計画事業」により駅の橋上化と東西自由連絡通路、駅前広場の整備が進められている。

■年間乗車人員の推移



出典：2016年版「須賀川市統計書」。2015年の川東駅は把握できないため掲載なし。

(2) 高速バス

高速バスは、福島交通(株)、(株)さくら観光など5社により、バスタ新宿、東京駅及び仙台駅などを結ぶ7路線が運行しており、市内では「福島交通(株)須賀川営業所」と「須賀川 IC」の2箇所乗降可能となっている。

須賀川営業所には高速バス専用無料駐車場を設置している。

■高速バスの運行サービス

路線名	運行事業者	運行日	便数	
			平日	土日祝
福島・郡山～新宿線「あぶくま号」	福島交通、JR 関東、JR 東北	毎日	12.0 便	12.0 便
須賀川・郡山～仙台線	福島交通、宮城交通	毎日	2.5 便	3.0 便
福島～京都・大阪線「ギャラクシー号」	福島交通、近鉄バス	毎日	1.0 便	1.0 便
郡山～新越谷線「あだたら号」	福島交通、東武バス	毎日	4.0 便	4.0 便
福島・郡山・宇都宮～名古屋線	福島交通、名鉄バス	毎日	1.0 便	1.0 便
須賀川～大宮・東京・市川線	さくら観光	毎日	2.0 便	2.0 便
須賀川～東京・浜松町線	さくら観光	毎日	6.0 便	6.0 便

(3) 路線バス

①運行便数

路線バスは、福島交通㈱1社により、須賀川駅や郡山駅を起終点に、広域路線バスが13系統、市内路線バスが9系統、合計22系統が運行している。

運行便数は須賀川駅と郡山駅を結ぶ区間で平日15.5往復、土日祝8.0往復となっているが、2019年4月1日から須賀川線の大幅な減便により、平日5.5往復、土日祝1.5往復と利便性が低下する。また、須賀川駅と長沼地区を結ぶ区間で平日14.5往復、土日祝11.5往復と多くなっているが、その他の路線では平日2～4往復の低頻度運行で、土日祝が運行していない路線も多い。

■路線バス運行便数

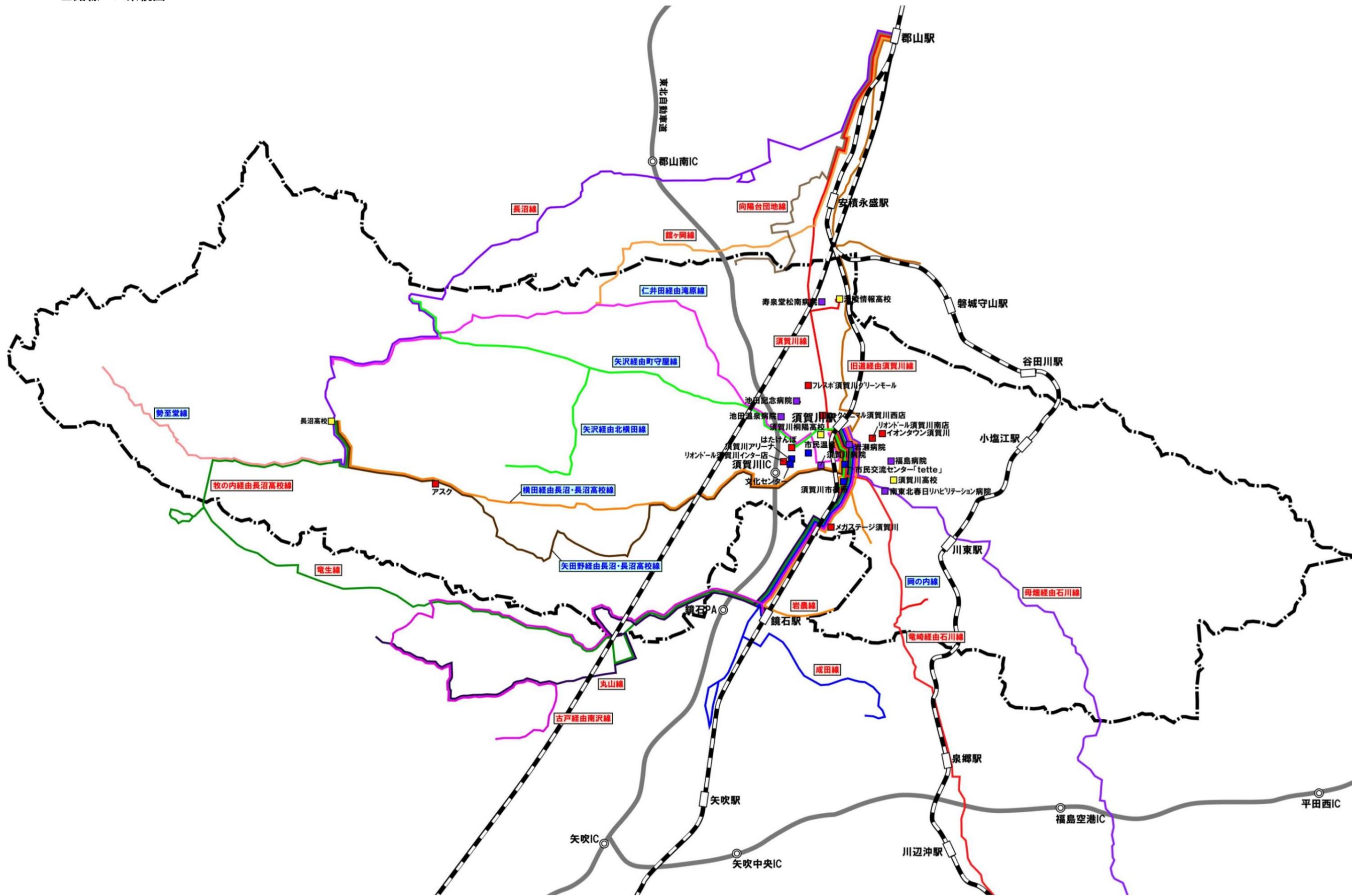
	No	系統名	運行区間	運行便数		備考
				平日	土日祝	
広域 路線 バス	1	旧道經由須賀川	須賀川駅～旧国道～郡山駅	3.5	1.5	
	2	成田	須賀川駅～成田～東部工業団地	3.0	—	学休日運休
	3	牧の内經由長沼高校	須賀川駅～牧の内～長沼高校	2.0	—	
	4	丸山	須賀川駅～小川～丸山車庫	1.0	—	
	5	古戸經由南沢	須賀川駅～古戸～南沢	1.0	—	
	6	館ヶ岡	郡山駅～館ヶ岡公民館	3.0	3.0	
	7	岩農	須賀川駅～鏡石駅前～岩農	1.0	—	学休日運休
	8	竜崎經由石川	須賀川駅～竜崎～石川駅前	5.5	3.0	
	9	長沼	郡山駅～長沼車庫	5.0	5.0	
	10	母畑經由石川	須賀川駅～母畑～石川駅前	7.0	4.0	
	11	竜生	須賀川駅～竜生	6.0	3.0	
	12	向陽台団地	郡山駅～季の郷	12.0	7.0	
	13	須賀川※	(並木町)～須賀川駅～新道～郡山駅	12.0	6.5	
市内 路線 バス	1	仁井田經由滝原	須賀川駅～仁井田～滝原	4.0	—	
	2	矢沢經由町守屋	須賀川駅～矢沢～町守屋	3.0	—	
	3	矢沢經由北横田	並木町～須賀川駅～矢沢～北横田	2.0	—	
	4	岡の内	須賀川駅～岡の内	2.0	—	学休日運休
	5	勢至堂	長沼車庫～勢至堂上	1.0	—	
	6	矢田野經由長沼	須賀川駅～矢田野～長沼車庫	3.5	6.5	
	7	矢田野經由長沼高校	須賀川駅～矢田野～長沼高校	3.5	—	
	8	横田經由長沼	須賀川駅～横田～長沼車庫	6.0	5.0	
	9	横田經由長沼高校	須賀川駅～横田～長沼高校	1.5	—	

※須賀川線は2019年4月1日より平日2.0往復

■多様な運賃割引サービス

種類		概要
回数券	NORUCA 回数券	1,000円ごとに10%（100円）のプレミアを付与
	NORUCA 学割回数券	学生の方に限り、プレミア20%を付与
	NORUCA ちょこっとエコ回数券（ちょこエコ）	毎月1日、11日、21日の3日間に限り、お得なプレミア率（40%）を付与
定期券	ノルカパス 65	65歳以上の方に限り、全路線乗車可能な定期券 ※1ヶ月7,000円、3ヶ月16,000円、6ヶ月27,000円、12ヶ月48,000円
	ノルカパス 75	75歳以上の方に限り、「ノルカパス 65」よりも更にお得な定期券 ※1ヶ月4,000円、3ヶ月8,000円、6ヶ月13,000円、12ヶ月23,000円
	NORUCA 片道通学定期券	通学の行き又は帰りのいずれかだけバスや飯坂線を利用する学生の方が対象に、通常の通学定期券の半額で購入可能
	小児割引通学定期券	小学生以下で身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者手帳のいずれかを交付されている方を対象に、従来の小児通学定期券の更に30%割引のお得な定期券
	1・2・3・4・5・6ヶ月＋端数定期券	設定期間は1・2・3・4・5・6ヶ月＋29日以内。定期券の使用期間は好きな日にちにすることが可能。
乗り継ぎ割引		NORUCA 回数券で降車後、60分以内に再びバスや飯坂線に乗車した場合、大人50円、小児30円を自動的に割引サービス
休日100円サービス		通勤定期券や通学定期券を持っているだけで、土・日・祝日は家族も1回乗車100円で利用可能。
エリア自由乗降サービス		各循環路線のエリア運賃まで上乗せして定期券を購入した場合、経路上の停留所はもちろん、循環内部の全停留所で自由に乗り降りできる。
エコチケット		企業や団体様に「エコチケット」（回数券）を購入していただき、一定のお客様に対し、一定条件のもとに配布していただくもの。
グリーン定期券		企業や団体様につき5名以上の申し込みで購入できる定期券。人数が増える毎に通勤定期券額から一定の割引率が適用される。
一括定期券		自治体や学校を通じて、学生の通学定期券を一括購入できるサービス。自動更新システムを搭載しているので、窓口での更新手続きが不要。

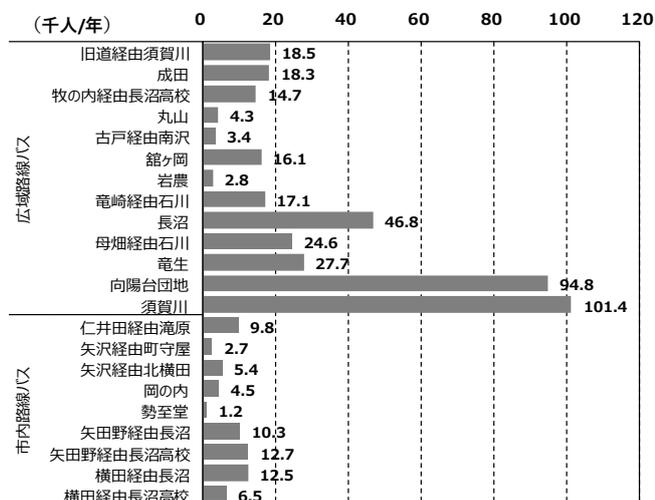
■路線バス系統図



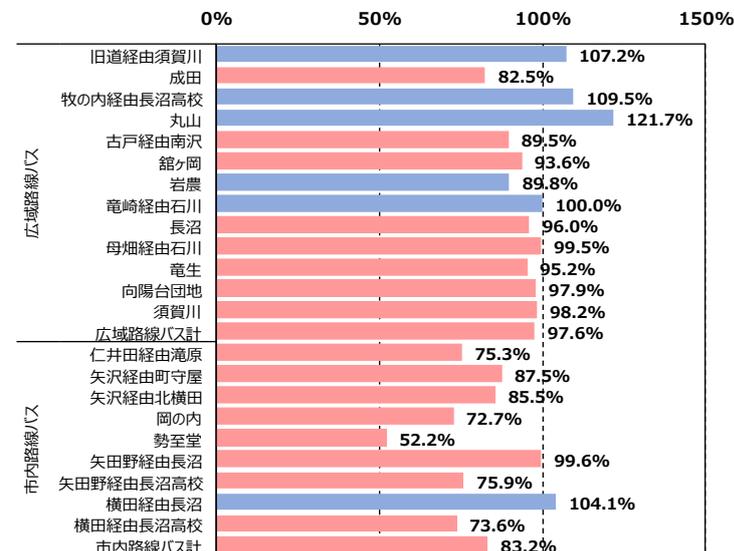
②利用者数

路線バスの利用者数は、須賀川線、向陽台団地線など広域路線バスで多い。路線バス全体の直近3年間（2015年～2017年）の増減率は95.2%となっており、広域路線バス（12系統）では97.6%、市内路線バス（10系統）では83.2%と市内路線バスの利用者が大きく減少している。

■路線バス系統別利用者数



■直近3年間の増減率（青色：増加、赤色：減少）



■路線バス系統別利用者数の推移

(単位：人)

No	系統名	2014年	2015年 (a)	2016年	2017年 (b)	増減者数 (b) - (a)	増減率 (b) / (a)
広域路線バス	1 旧道經由須賀川	17,400	17,298	17,656	18,539	1,241	107.2%
	2 成田	24,255	22,238	19,350	18,337	△ 3,901	82.5%
	3 牧の内經由長沼高校	14,617	13,412	13,965	14,680	1,268	109.5%
	4 丸山	3,146	3,509	3,584	4,271	762	121.7%
	5 古戸經由南沢	4,558	3,839	3,125	3,436	△ 403	89.5%
	6 館ヶ岡	16,589	17,163	17,009	16,066	△ 1,097	93.6%
	7 岩農	2,726	3,114	3,331	2,797	△ 317	89.8%
	8 竜崎經由石川	19,259	17,103	17,375	17,100	△ 3	100.0%
	9 長沼	48,052	48,749	48,883	46,796	△ 1,953	96.0%
	10 母畑經由石川	28,283	24,756	24,081	24,625	△ 131	99.5%
	11 竜生	32,314	29,128	24,988	27,743	△ 1,385	95.2%
	12 向陽台団地	92,752	96,811	94,212	94,783	△ 2,028	97.9%
	13 須賀川	104,252	103,212	103,663	101,402	△ 1,810	98.2%
小計		408,203	400,332	391,222	390,575	△ 9,757	97.6%
市内路線バス	1 仁井田經由滝原	15,507	13,026	12,014	9,809	△ 3,217	75.3%
	2 矢沢經由町守屋	3,516	3,101	2,665	2,712	△ 389	87.5%
	3 矢沢經由北横田	5,642	6,348	6,014	5,428	△ 920	85.5%
	4 岡の内	7,709	6,221	5,140	4,520	△ 1,701	72.7%
	5 勢至堂	2,404	2,245	1,926	1,172	△ 1,073	52.2%
	6 矢田野經由長沼	10,461	10,328	10,167	10,291	△ 37	99.6%
	7 矢田野經由長沼高校	19,799	16,735	13,327	12,695	△ 4,040	75.9%
	8 横田經由長沼	12,494	11,978	12,022	12,473	495	104.1%
	9 横田經由長沼高校	10,592	8,842	6,870	6,510	△ 2,332	73.6%
小計		88,124	78,824	70,145	65,610	△ 13,214	83.2%
合計		496,327	479,156	461,367	456,185	△ 22,971	95.2%

③事業収支（行政負担額）

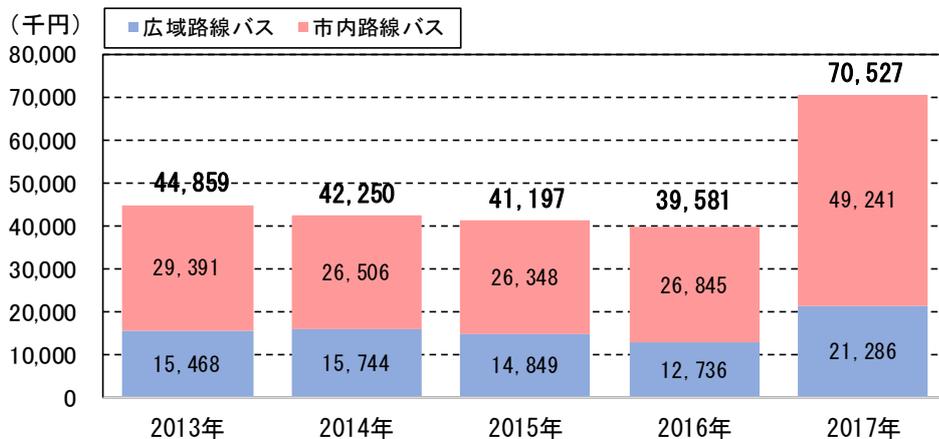
須賀川市内で運行中の路線バス 22 系統（福島交通(株)自主運行路線 2 系統を含む）全てで赤字となっており、東日本大震災以降、応急仮設住宅を経由する系統においては、被災地域の特例があったが、応急仮設住宅の閉鎖に伴い、経過措置として一部の特例が残っているものの、ほぼ東日本大震災前の状況に戻ってしまったため、須賀川市の行政負担額は 2016 年から 2017 年にかけて急増し、約 7,000 万円（広域路線バス：約 4,900 万円、市内路線バス：約 2,100 万円）を負担している。

■年度別事業収支の推移

年度	広域路線バス			市内路線バス			合計		
	経常収益 (千円)	経常費用 (千円)	収支差 (千円)	経常収益 (千円)	経常費用 (千円)	収支差 (千円)	経常収益 (千円)	経常費用 (千円)	収支差 (千円)
2013年	60,907	173,886	△ 112,979	32,579	91,635	△ 59,056	93,486	265,521	△ 172,035
2014年	59,615	179,955	△ 120,339	30,736	90,677	△ 59,942	90,351	270,632	△ 180,281
2015年	56,093	179,513	△ 123,420	28,611	90,662	△ 62,050	84,704	270,175	△ 185,470
2016年	54,094	177,449	△ 123,355	24,537	89,459	△ 64,922	78,631	266,908	△ 188,277
2017年	54,937	182,232	△ 127,294	23,127	94,759	△ 71,632	78,064	276,991	△ 198,926

※年度はバス事業年度（前年 10 月～9 月）

■年度別須賀川市行政負担額の推移



※年度はバス事業年度（前年 10 月～9 月）

■広域路線バス（2017年）の公費負担額

系統名	運行区間	欠損額 (千円)	うち市負担分 (千円)
旧道経由須賀川	須賀川駅～旧国道～郡山駅	7,445	5,271
成田	須賀川駅～成田～東部工業団地	5,541	914
牧の内経由長沼高校	須賀川駅～牧の内～長沼高校	7,859	1,969
丸山	須賀川駅～小川～丸山車庫	3,042	742
古戸経由南沢	須賀川駅～古戸～南沢	4,188	796
舘ヶ岡	郡山駅～舘ヶ岡公民館	5,745	2,600
岩農	須賀川駅～鏡石駅前～岩農	506	140
竜崎経由石川	須賀川駅～竜崎～石川駅前	20,848	1,914
長沼	郡山駅～長沼車庫	15,750	515
母畑経由石川	須賀川駅～母畑～石川駅前	29,029	4,262
竜生	須賀川駅～竜生～（二岐）	27,342	2,164
計		127,294	21,286

※「向陽台団地」「須賀川」は福島交通(株)自主運行路線のため除く

■市内路線バス（2017年）の公費負担額

系統名	運行区間	欠損額 (千円)	うち市負担分 (千円)
仁井田経由滝原	須賀川駅～仁井田～滝原	10,468	10,468
矢沢経由町守屋	須賀川駅～矢沢～町守屋	7,134	7,134
矢沢経由北横田	並木町～須賀川駅～矢沢～北横田	3,945	3,945
岡の内	須賀川駅～岡の内	1,314	1,314
勢至堂	長沼車庫～勢至堂上	1,203	1,203
矢田野経由長沼	須賀川駅～矢田野～長沼車庫	17,459	9,097
矢田野経由長沼高校	須賀川駅～矢田野～長沼高校	7,059	3,401
横田経由長沼	須賀川駅～横田～長沼車庫	18,800	9,816
横田経由長沼高校	須賀川駅～横田～長沼高校	1,388	
長沼地区循環	長沼東部コミュニティセンター～江花	2,862	2,862
計		71,632	49,241

(4) 市内循環バス

① 運行概要

市内循環バスは、「総合連携計画」においてリーディングプロジェクトの1つとして位置付けられ、2013年5月より運行を開始しており、須賀川駅前を発着場所とし、市街地の行政機関・医療機関・商業施設等を循環するバスネットワークの構築とともに、通勤通学の移動手段を確保することを目的に運行している。

運行開始以降、利用者の更なる利便性を図るため、東循環バスは、フリー乗降区間の設置やメガステージまでの経路延長等を行っており、西循環バスは、森宿地内までの経路延長や、病院内乗り入れ等を行っている。また、東西循環バスの共通事項として、ダイヤ改正やバス停の追加、新庁舎オープンに伴う市庁舎乗り入れ（2017年5月8日～）、運行日の拡大（平日のみから土曜日運行（2017年10月1日～））等を行っている。

なお、「須賀川駅前」、「須賀川栄町」、「公立病院前」、「北町」、「宮先町」、「須賀川中町」、「須賀川市役所」の7箇所東循環バスの乗継ぎが可能となっている。

■市内循環バスの運行ルート図



■市内循環バスの運行サービス

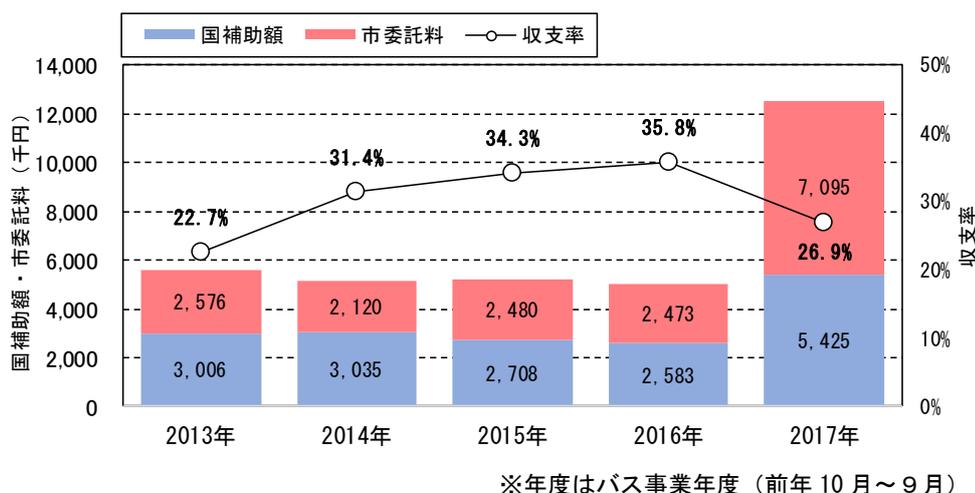
運行日	平日、土曜日
運行便数	《東循環バス》：仲の町先回り4便（2便）、北町先回り6便（4便）
※（ ）内は土曜日	《西循環バス》：公立病院先回り7便（3便）、市民温泉先回り7便（3便）
利用料金	○1乗車：大人100円、小学生50円、障がい者等（大人・介護者50円、小学生30円） ○1日券：大人200円、小学生100円、障がい者等（大人・介護者100円、小学生50円）

②利用実績

市内循環バスの国庫補助金額及び市委託料の合計額は、2013年度から2016年度にかけては微減傾向にあったものの、2017年度は約1,250万円に増大している。その要因として、国の「特定被災地域公共交通調査事業」の対象であった西循環バスが、応急仮設住宅の供与期間終了（2017年3月末）に伴い、補助対象から外れたため、東循環バスと事業を統合したことと、2016年10月1日から運行日を平日のみから平日・土曜日に拡大した影響によるものである。

収支率は、経常収益の増加に伴い、2013年度から2016年度にかけて上昇していたが、2017年度は東循環バスと比較して経常収益の少ない西循環バスと事業統合したことにより、26.9%に低下している。

■市内循環バスの国補助額・市委託料及び収支率の推移



■市内循環バスの運行収支実績

(単位：千円、%)

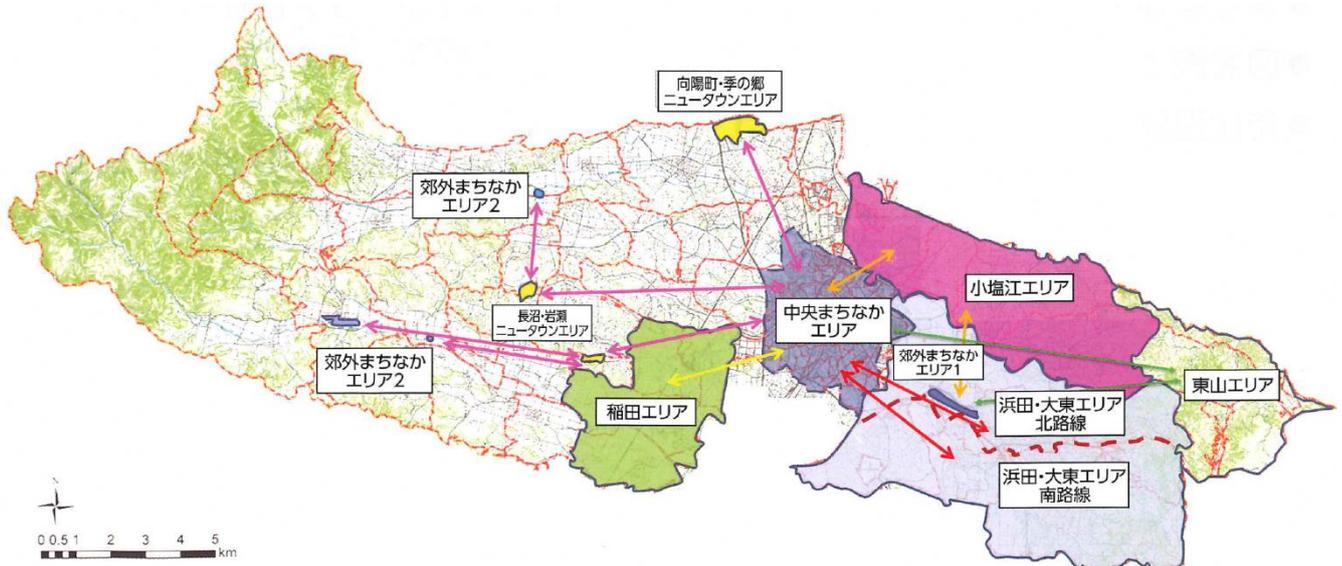
年度	系統名	経常収益			経常費用	収支差	国補助額	市委託料	収支率
		運賃	その他	計					
2013年	東循環北町先回り	1,046	149	1,195	5,748	△ 4,552	2,398	2,155	20.8%
	東循環仲の内先回り	406	38	444	1,474	△ 1,030	609	421	30.1%
	計	1,452	187	1,640	7,222	△ 5,582	3,006	2,576	22.7%
2014年	東循環北町先回り	1,138	138	1,276	4,511	△ 3,235	1,821	1,414	28.3%
	東循環仲の内先回り	995	92	1,087	3,007	△ 1,920	1,214	706	36.1%
	計	2,132	230	2,363	7,518	△ 5,155	3,035	2,120	31.4%
2015年	東循環北町先回り	1,309	118	1,427	4,737	△ 3,309	1,702	1,608	30.1%
	東循環仲の内先回り	1,200	79	1,279	3,158	△ 1,879	1,007	873	40.5%
	計	2,509	197	2,706	7,894	△ 5,188	2,708	2,480	34.3%
2016年	東循環北町先回り	1,409	112	1,521	4,728	△ 3,207	1,616	1,591	32.2%
	東循環仲の内先回り	1,229	74	1,303	3,152	△ 1,849	967	882	41.3%
	計	2,638	186	2,824	7,880	△ 5,056	2,583	2,473	35.8%
2017年	東循環北町先回り	1,723	146	1,869	6,490	△ 4,621	2,018	2,604	28.8%
	東循環仲の内先回り	1,340	96	1,436	4,293	△ 2,856	1,148	1,709	33.5%
	小計	3,063	242	3,305	10,783	△ 7,478	3,165	4,313	30.7%
	西循環公立病院先回り	613	71	684	3,171	△ 2,486	1,119	1,368	21.6%
	西循環市民温泉先回り	544	71	615	3,171	△ 2,556	1,142	1,414	19.4%
	計	4,221	384	4,605	17,125	△ 12,520	5,425	7,095	26.9%

※年度はバス事業年度（前年10月～9月）

(5) 乗合タクシー

① 運行概要

乗合タクシーは、交通不便地域の改善と路線バスの補完的な役割として、「総合連携計画」策定以降、運行エリアの新設・拡充・区域見直しが行われ、5エリアや各ニュータウンエリアと中央まちなかエリア等を結ぶよう運行している。



■乗合タクシーの運行概要

運行エリア名	運行地域	運行事業者	運行日	運行便数
浜田・大東エリア(北)	浜尾、和田の一部、小作田、雨田、下小山田、上小山田の一部	あづまタクシー	平日のみ	4往復
浜田・大東エリア(南)	前田川、市野関、田中、日照田、大栗、狸森、虹の台	あづまタクシー	平日のみ	4往復
小塩江エリア	江持、堤、あおば町、塩田の一部、小倉の一部	須賀川交通	平日のみ	4往復
各ニュータウンエリア	向陽町、季の郷、花の里、木之崎字蓑輪、木之崎字北原、北横田字(石の花)、畑田字(みどりが丘)	長沼観光タクシー	平日のみ	2往復
稲田エリア	岩淵、保土原、古戸、泉田、松塚、稲	長沼観光タクシー	平日のみ	4往復
東山エリア(※)	塩田の一部、小倉の一部、上小山田の一部	あづまタクシー、須賀川交通	火・木曜日	2往復

※東山エリアは2018年4月から運行開始

- ・利用予約

- ：利用前日までに各エリアの運行事業者に電話予約（氏名、住所、電話番号、目的地、利用する運行時間）

- ・予約時間：平日の8時30分から17時まで

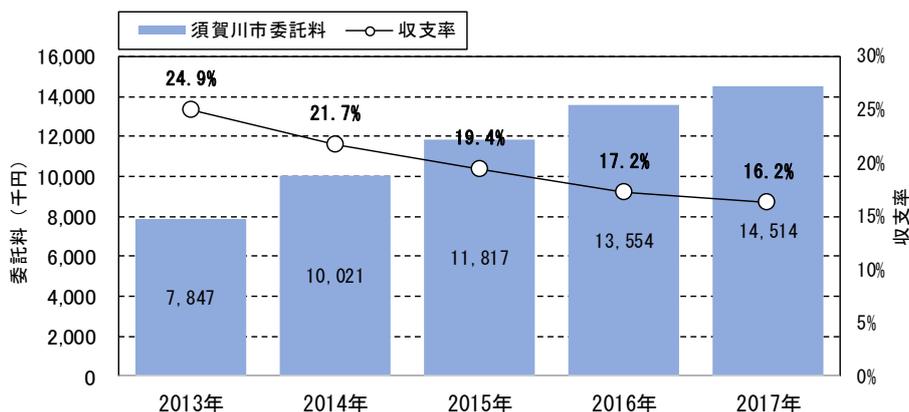
- ・運賃：1回片道500円（就学前児童は無料）

②利用実績

乗合タクシーの利用実績は、延べ人数が直近3年間で横ばい状態となっているが、稼働台数、稼働日数が微増し、1便当たり乗車人数は微減傾向となっている。

一方で、運行収支状況を見ると、須賀川市行政負担額は、交通弱者や交通不便地域の解消のために実施した運行エリアの拡大による運行費用の増加や国庫補助金の縮減に伴い、年々増加傾向にあり、収支率がそれに比例し低下している。2017年度の行政負担額は、約1,450万円で、収支率は16.2%となっている。

■乗合タクシーの委託料及び収支率の推移



■乗合タクシー利用実績

運行地域	運行事業者	年度	延べ人数 (人)	稼働台数 (台)	1便当たり乗車人数 (人/台)	稼働日数 (日)	運行費用 (千円)	運行収入 (千円)	委託料 (千円)	収支率 (%)
浜田・大東エリア (北)	あづまタクシー	2013年	1,381	854	1.6	229	2,869	691	2,179	24.1%
		2014年	1,490	986	1.5	236	3,514	745	2,769	21.2%
		2015年	1,428	946	1.5	240	3,678	714	2,964	19.4%
		2016年	1,695	1,057	1.6	236	4,555	848	3,707	18.6%
		2017年	1,498	1,004	1.5	243	4,283	749	3,534	17.5%
浜田・大東エリア (南)	あづまタクシー	2013年	215	165	1.3	92	641	108	534	16.8%
		2014年	574	444	1.3	166	1,822	287	1,535	15.8%
		2015年	789	600	1.3	198	2,657	395	2,262	14.8%
		2016年	624	530	1.2	187	2,519	312	2,207	12.4%
		2017年	698	601	1.2	208	2,921	349	2,572	11.9%
小塩江エリア	須賀川交通	2013年	2,307	1,230	1.9	234	4,004	1,154	2,850	28.8%
		2014年	2,297	1,255	1.8	238	4,473	1,149	3,324	25.7%
		2015年	2,263	1,239	1.8	235	4,817	1,132	3,686	23.5%
		2016年	1,708	1,076	1.6	228	4,648	854	3,794	18.4%
		2017年	1,717	1,116	1.5	230	4,881	859	4,023	17.6%
各ニュータウンエリア	長沼観光タクシー	2013年	1,077	718	1.5	209	2,337	539	1,799	23.0%
		2014年	931	624	1.5	207	2,230	466	1,765	20.9%
		2015年	891	650	1.4	213	2,527	446	2,082	17.6%
		2016年	976	687	1.4	217	2,931	488	2,443	16.7%
		2017年	825	637	1.3	216	2,745	413	2,332	15.0%
稲田エリア	長沼観光タクシー	2013年	230	194	1.2	113	601	115	486	19.1%
		2014年	256	222	1.2	119	755	128	627	16.9%
		2015年	312	259	1.2	138	979	156	823	15.9%
		2016年	624	418	1.5	169	1,715	312	1,403	18.2%
		2017年	887	599	1.5	202	2,497	444	2,053	17.8%
5地域合計		2013年	5,210	3,161	1.6	877	10,452	2,605	7,847	24.9%
		2014年	5,548	3,531	1.6	966	12,795	2,774	10,021	21.7%
		2015年	5,683	3,694	1.5	1,024	14,658	2,842	11,817	19.4%
		2016年	5,627	3,768	1.5	1,037	16,368	2,814	13,554	17.2%
		2017年	5,625	3,957	1.4	1,099	17,327	2,813	14,514	16.2%

2-4 交通不便地域の整理

「バスサービスハンドブック（土木学会）」によると、無理なく歩ける距離は健常者で300m、高齢者で100mとされている。

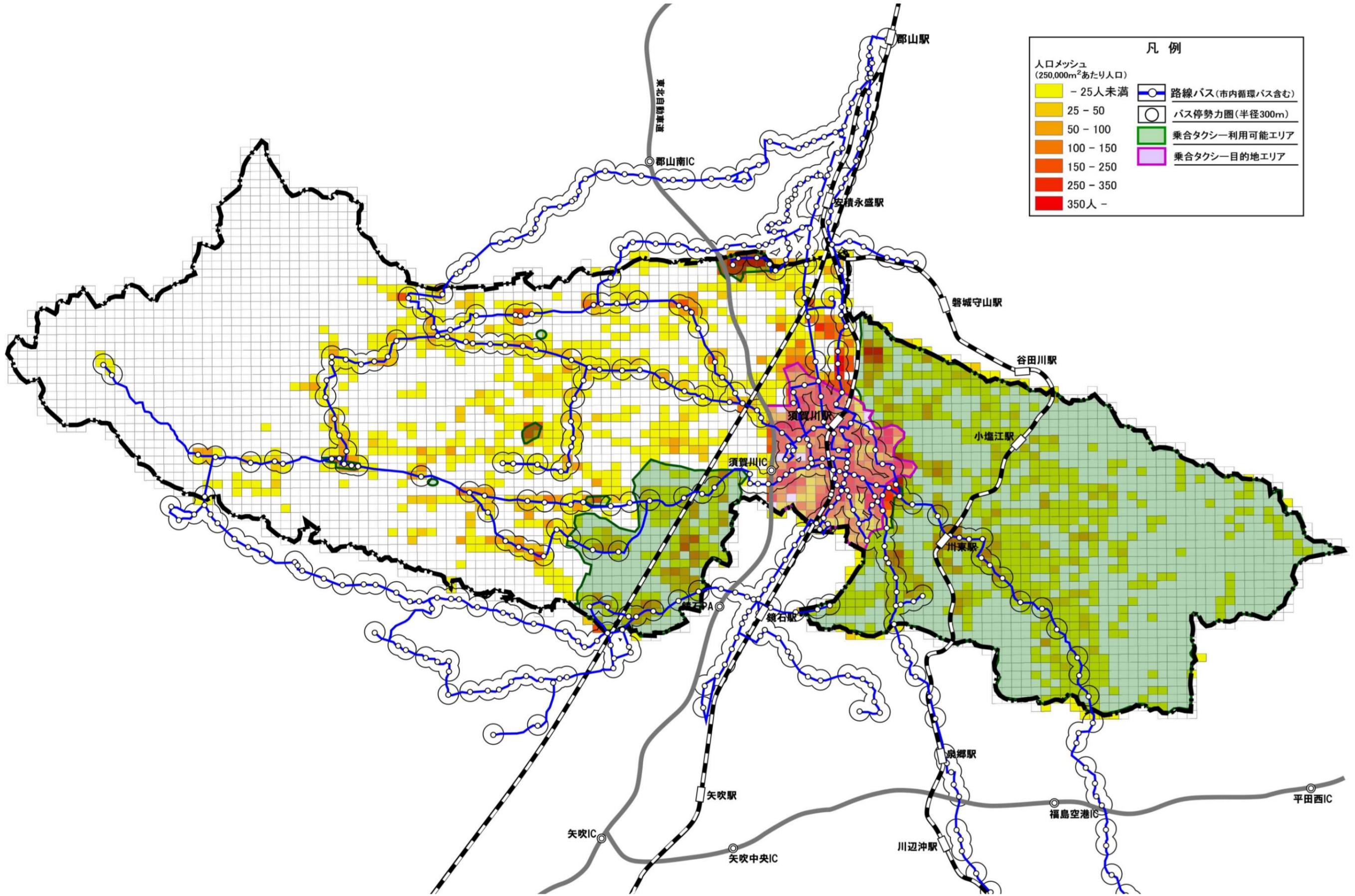
バス停勢力圏（半径300m）外で、かつ乗合タクシー運行地域外のエリアである交通不便地域は、西袋地区、仁井田地区、岩瀬地区、長沼地区など須賀川駅より西側エリアで広範囲に点在している。

■抵抗を感じない距離

出典：バスサービスハンドブック（土木学会）

条件	一般的な人 歩行速度 80m/分	高齢者等 歩行速度 40m/分
90%の人が抵抗感なし（約3.5分）	300m	100m
大きな荷物がある（約2分）	150m	80m

■交通不便地域×人口 250mメッシュ (2015年国勢調査)



凡例

人口メッシュ (250,000m ² あたり人口)	路線バス(市内循環バス含む)
■ - 25人未満	○ バス停勢力圏(半径300m)
■ 25 - 50	■ 乗合タクシー利用可能エリア
■ 50 - 100	■ 乗合タクシー目的地エリア
■ 100 - 150	
■ 150 - 250	
■ 250 - 350	
■ 350人 -	

2-5 その他交通資源の整理

(1) 一般タクシー

須賀川市では、9社のタクシー事業者が運行中である。なお、福島県タクシー協会加盟のタクシー事業者では運転免許証自主返納者に対し、乗車料金の1割引サービスを行っている。

■タクシー事業者の概要

出典：福島県タクシー協会

会社名	所在地	車両数
(有)須賀川交通	須賀川市並木町 285-6	22台
マルイチ平和タクシー(有)	須賀川市新町 11	21台
須賀川観光タクシー(有)	須賀川市西川字鍛冶田 12	10台
マルイチつばさ観光タクシー(有)	須賀川市西川町 93	12台
(株)岩瀬タクシー	須賀川市大黒町 45-20	14台
(有)共栄タクシー	須賀川市並木町 2856	10台
マルイチ牡丹タクシー(有)	須賀川市新町 11	11台
(有)あづまタクシー	須賀川市大字小作田字鍛冶分 16-3	8台
長沼観光タクシー合資会社	須賀川市長沼字金町 146	8台

(2) 送迎輸送サービス

メガステージ循環バス（運行事業者：(有)旭バス）は、メガステージ須賀川内に立地する(株)ヨークベニマルと、開発業者である(株)アクティブワンが主体となり、2008年2月より運行を行っている。現在、メガステージ須賀川内に乗り入れている市内循環バスとの運行ダイヤの調整を行っている。

また、幼稚園や自動車学校などのスクールバスや医療施設送迎、社員送迎など様々な特定利用者を対象とした送迎輸送サービスが行われている。

■メガステージ循環バスの運行概要

運行区間	メガステージヨークベニマル～福島病院～メガステージヨークベニマル
運行日	毎日
運行時間帯、便数	9:30～17:00、7便
利用料金	無料



*** 循環バス運行表 ***

	第1便	第2便	第3便	第4便	第5便	第6便	第7便
メガステージ ヨークベニマル前発	9:30	10:30	11:30	12:30	14:30	15:30	16:30
メガステージ ダイユーエイト前発	9:31	10:31	11:31	12:31	14:31	15:31	16:31
東邦銀行 須賀川東支店手前 発	9:34	10:34	11:34	12:34	14:34	15:34	16:34
須賀川高校前発	9:38	10:38	11:38	12:38	14:38	15:38	16:38
福島病院前発	9:43	10:43	11:43	12:43	14:43	15:43	16:43
上北町婦人服 タイヨ前発	9:48	10:48	11:48	12:48	14:48	15:48	16:48
ホテルウイング前発	9:50	10:50	11:50	12:50	14:50	15:50	16:50
旧ヨークベニマル 南町店前発	9:55	10:55	11:55	12:55	14:55	15:55	16:55
東北電力前発	9:57	10:57	11:57	12:57	14:57	15:57	16:57
メガステージ ヨークベニマル前発	10:00	11:00	12:00	13:00	15:00	16:00	17:00

2-6 関係者アンケート調査

路線バスや乗合タクシーを運行する交通事業者やその他民間企業等関連施設を対象に、定性的な利用特性や、市の地域公共交通の見直しにあたっての留意点、現在抱えている課題等を把握するためのアンケート調査を行った。(2018年12月下旬～2019年1月中旬)。

調査対象関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・バス事業者…福島交通(株) ・乗合タクシー事業者…(有)須賀川交通、長沼観光タクシー(有)、(有)あづまタクシー ・商業施設…イオンタウン須賀川店、ヨークベニマル(須賀川森宿店(フレスポ内)、須賀川南店(メガステージ内)、須賀川西店)、リオンドール(須賀川南店、須賀川インター店、須賀川東店)、ショッピングパークアスク ・医療機関…池田記念病院、公立岩瀬病院、国立病院機構・福島病院、須賀川病院
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・調査方法…メール、FAXによる配布、回収 ・調査期間…2018年12月下旬～2019年1月中旬

(1) 交通事業者

バス事業者	福島交通(株)	<ul style="list-style-type: none"> ○平日の朝・夕時間帯で、通勤車両により、関下～須賀川駅、山寺～大谷地入口で渋滞による遅延が発生。 ○上金町バス停、源田原バス停、高林西バス停(天栄村)、六軒団地～桜岡団地及び東公民館～上野団地で、狭路による見通しが悪く、危険を感じる。 ○利用促進を図るため、ノルカパス65・75、休日100円サービス、NORUCA回数券、乗継割引(60分以内乗換え50円割引)、企業向け「グリーン定期券(5名以上団体向け)、エコチケット、おでかけノルカ等を販売。市内循環バス1日乗り放題の販売。バスの乗り方教室の開催や「牡丹ライナー」、「松明あかしライナー」を運行。 ○利用者や市民等から学校行事の際の臨時便運行の要望がある。 ○乗務員の不足や高齢化の課題を抱えている。 ○生産性向上のため、行政に対し「乗り方教室」の協力をお願いしたい。
乗合タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・(有)須賀川交通 ・長沼観光タクシー(有) ・(有)あづまタクシー 	<ul style="list-style-type: none"> ○各社とも直近5年間の一般タクシー乗客数は減少傾向で、須賀川市民の割合は約9割。 ○乗合タクシーは予約をしたのに忘れてしまう方や、認知症気味の方が多くなってきたことや、高齢化による介護が必要な方(乗降時の転倒や病院の受付まで付添など)が増えてきた。 ○乗合タクシーは土、日曜日の電話受付や、帰りの時間までの過ごし方、時間変更について利用者等から要望がある。 ○一般タクシーは80歳以上にタクシー券などがあれば、免許返納を考えているとの要望がある。 ○乗務員の不足や高齢化の課題を抱えている。

(2) その他民間企業等関連施設

<p>商業施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンタウン須賀川店 ・ヨークベニマル(須賀川森路店 (フレスポ内)、須賀川南店(メ ガステージ内)、須賀川西店) ・リオンドール(須賀川南店、須 賀川インター店、須賀川東店) ・ショッピングパークアスク 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内での商業を取り巻く現状や動向等は、新規店舗の出店、同業他社の乱立、ドーナツ化現象が起きている。 ○公共交通に関して、来店者から須賀川駅への運行情報や、夜間の運行、自宅玄関先までの送迎について要望がある。 ○施設側からの改善・要望としては、店舗前のバス停設置、運行本数の増便、運行時間帯の拡大、重い荷物を買った場合の対応が寄せられている。 ○公共交通利用促進策として、割引チケットやスタンプラリーといった取組みは可能。
<p>医療機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・池田記念病院 ・公立岩瀬病院 ・国立病院機構・福島病院 ・須賀川病院 	<ul style="list-style-type: none"> ○各医療機関とも外来患者は平日の午前時間帯で多く、公共交通機関を利用する方は1割程度。 ○須賀川病院のみ送迎サービスを実施。 ○福島病院前にバス停を設置してほしい。 ○市内循環バス(西循環)の始発時間帯を早くしてほしい。 ○車を持たない高齢者などが利用しやすい環境の充実。